

第2回福岡市子ども読書活動推進計画策定検討委員会 議事録

日時	平成28年11月15日(火) 15:30~17:00
場所	福岡ビル9F 第2ホール
出席者	別紙のとおり
議題	子ども読書活動推進計画(第3次)の策定について
公開・非公開の別	非公開
傍聴人の数	—

1 開会

(1) 事務局挨拶

教育支援部長挨拶

事務局 | ※傍聴要領について説明(内容は省略)
(委員からの質問なし)

(2) 各委員の紹介

事務局 | ※出席者名簿, 座席表の説明をもって各委員の紹介とする。

2 協議

(1) 福岡市子ども読書活動推進計画(第3次)の策定について

委員長 | 事務局より説明を

事務局 | ※第3次計画の素案について説明(省略)

委員長 | まずは, 計画の基本的な考え方について質問はないか。

委員 | 重点的に取り組む施策の中で「障がい等のある子どもの読書活動の支援」とあるが, 特別支援学校における読書活動の支援はここに入るのか。

事務局 | 取組分野2の「学校における読書活動の推進」の中に「障がい等のある子どもの読書活動の支援」を位置づけており, 具体的

には特別支援学校における読書活動の支援を行っていく予定である。

委員 規模の大きな学校には学校図書館の環境整備についてそれなりの措置があってもよいと思われる。

事務局 施設を担当する部署と今後話していく。

委員長 では、取組分野1「家庭・地域における読書活動の支援」で何か意見はないか。

委員 スタンダード文庫の整備は非常に良かったと思う。公民館における読書ボランティアとも協議して選書を行ったこともあり、公民館における読書活動の支援にとって大きいものであった、今後もスタンダード文庫の活用・整備を継続してほしい。

事務局 本年度よりスタンダード文庫の補充及びスタンダード文庫を使った読み聞かせ講座を実施している。協力をお願いしたい。

委員 地域における読書活動の支援の中で、ボランティアと公民館の交流会とあるが、それは各公民館で行うものなのか。

事務局 公民館ごとではなく、全市的に多くの公民館とボランティアが一堂に会する機会を設けて、ボランティアを希望する公民館と活動を希望するボランティアのマッチングの場を作りたいと考えている。

委員 時期はいつごろを考えているのか。ボランティア養成講座等で募集の告知ができるタイミングで実施したら良いと思われる。

委員 ボランティア養成講座を行っている団体と連携を取りながら、地域の実情に即した人材が集まるような丁寧なボランティアの募集をしてほしい。

事務局 開催時期などを是非ご提案いただきたい。事前に公民館の希望などを把握した上で、ボランティアの紹介ができるように、ボ

ランティア講座の受講者に限定せず、広く市政だよりやホームページなども使って周知を行う予定。

委員

子ども読書活動の推進のためには幼い時からの働きかけが重要であるので、公民館で行われている育児サロン等を利用して絵本の読み聞かせをするとよい。

委員

スタンダード文庫をサロン等で活用するのであれば、スタンダード文庫のうちの0~2才の乳幼児向けの絵本を中心として利用することになる。赤ちゃん向けの小さな絵本を使ったり、わらべ歌や手遊びなどを入れていくことになるかと思う。選書のために添付されていたリストもおすすめの年齢ごとになっていたら選びやすく良いと思う。

委員

子ども読書活動の情報発信というのは、公民館が行うのか、それとも教育委員会が行うのか。

事務局

教育委員会も新たにフェイスブックなど SNS を使って行う予定である。

委員

各区の民生委員が赤ちゃん訪問をするときに、お薦め絵本のチラシなどを持参してPRするのも良いと思う。

委員長

では、第2分野の「学校を中心とした読書活動の推進」について意見はないか。

委員

「学校図書館の活性化」とあるが、ここに学校司書の活用と司書教諭の研修について追加していただきたい。

特に新任の司書教諭への情報提供や研修の充実を図っていくことが急務と思われる。まず、中学校では、学校図書館の授業活用など学校での読書活動の取組があって、そのうえで学校図書館支援センターの支援があると思われる。司書教諭の関わりを大事にしていくことで学校図書館も活性化していく。司書教諭と学校司書の共働という点で追加挿入していただきたい。

委員長

司書教諭の負担は大きいと思われるため、図書館には図書館の

ことを考える人が必要。

事務局

学校における読書活動の推進の中に「人材の活用と連携」というところに、教職員や司書教諭等を対象にした研修等の充実を盛り込んでいる。

委員

学校図書館支援センターで講座を行っている県もあると聞いている。司書教諭の仕事を研修などを通じて支援し欲しい。

事務局

学校長の方針のもと、司書教諭が中心となって読書活動推進に取り組んでいくため、時期をみて学校図書館全体計画のモデル提示を行っていきたいと考えている。

委員

現在、全ての学校に司書教諭が配置されているのか。また、学校司書の効果検証とあるが、具体的にはどのようなことを考えているのか。

事務局

離島など一部の学校を除き、ほとんどの学校に司書教諭が配置されている。

事務局

効果検証については読み上げ冊数であるとか、読書好きな子どもの数であるとか、そういった数値も含めて、現状の学校司書の配置のあり方について検証していく予定である。

委員

学校司書は本と人をつなぐ専門性を持っている。現在の配置状況では、中学校は年に12日と非常に少ない配置日数となっている。他県では、学校で学校司書が先生方の教科別会議に入り、資料を提供し、サポートをしているところもある。学校図書館が「学習・情報センター」としての役割をしっかりと果たせるよう是非効果的な活用を考えていただきたいとボランティアの立場として思っている。

委員

今、私たちは小学校4校を担当し、中学校は月1回なので正直、中学校ではほとんど活動できない状況。小学校についても週2日の勤務となっている。熱心に司書教諭がしっかり取り組まれて、朝読書やオリエンテーションなど効果、手ごたえがある学

校もある。

委員長

学校司書という資格もできるであろうという状況になってきている。学校にも学校司書がおられる状況で今後、変わってくるのではないかと、思われる。

委員

学校における読書活動の推進においては学校長のリーダーシップが非常に大事と思われる。しかしながら、学校司書の活動や司書教諭の取組が十分に知られていない現状がある。司書教諭や学校司書の取組について情報を発信していく、そういう研修にしていく必要があると思われる。

委員

今、中学生は部活動等で多忙と言われているが、部活の時間に本を読む時間を作るのは難しいのか。

委員

全校で放課後に読書時間を確保することは難しい。朝読書というのは非常に効果的と考えているが、学校によっては取組が少なくなっている。朝読書の効果についてきちんと先生に公開していく必要があると思う。読書月間であるとかブックフェスタ等、図書館を朝や放課後開放する取組もある。

委員

朝読書は短い時間だが、情緒が安定し、落ち着いた学校の始まりが、読書で始まっていく。中学校で読書の時間を確保するのは朝以外の他の時間はなかなか難しいと思われる。

委員

学校図書館におけるデータベース化については、総合図書館・分館であるとか、学校図書館同士でのデータベースの共有はできないのか。データベースの共有という意味での連携ではなかったのか。

事務局

データベースの共有という意味での連携ではなく、学校図書館支援センターを通じた学校図書館の支援と思っている。

委員

データベースの共有については検討していないのか。

事務局

現時点では検討していない。

委員	特別支援学校の学校図書館の本について、データベース化は終了しているのか。
事務局	特別支援学校についてデータベース化はできていないため、今後データベース化を進めていく予定。
委員長	では、取組分野4「家庭・地域・学校等の連携の推進」について意見はないか。
委員長	読書の魅力の発信というところでPOPコンテストの話があったが、他県でもすでに取り組んでいるところがある。
事務局	現在でも読書フォーラム等の中でPOPづくりなどをしており、子どもたちにも人気である。そのような取組を広げていきたい。
委員	「言葉の出が遅い」という悩みを持っている保護者が多いように感じる。保護者が子どもに繰り返しおはなしをしてあげることがあると感じている。
委員長	肉声での語りかけが大事だと思う。
委員	本とメディアの良い関係づくりについては、取り組む内容についてこれから検討するということか。
事務局	これまでもメディアに関する啓発は行ってきたが、読書活動をつなげた取組みは行っていなかったため、今後、子どもの年齢に合わせて、メディアの関係も含めた読書活動の支援を行っていく必要がある。
委員長	たとえば、2歳まではメディアに触れない方が良い。肉声での語りかけが重要である等。ICT教育も進んできており、その使い分けについて検証する必要がある。
事務局	小さな頃に読み聞かせ等読書活動をしっかり行くと中高生になって子どもがきちんと本とメディアを主体的に選択することが

できるのではないかと思う。年齢に応じたメディアと読書の在り方を検証していく。

委員長

興味深い内容である。取組分野に関わらず、何か意見はないか。

委員

学校司書の数是不変ならないのか。不變ならないのであれば、現状の中学校の勤務体制では中学校の支援が難しいため、配置の見直しをお願いしたい。人数が増えればよいというわけではなく、研修などを通じて、学校の取組みを充実させていくことが重要であると思われる。今ある人員と予算の中で取組を充実させていくためには、たとえば高校の司書を中学校に派遣するなど中高の連携が取れて良いかもしれない。

委員

先日、書店向けに読み聞かせの研修会を開催した。書店もこういう取組みができ、非常に好評でたくさんの書店の方の参加があった。

委員長

いろいろな機会をとらえて読み聞かせをすることは大事である。

委員

子どもが以前、朝読書のために本を買う、と本屋に行くのを楽しみしていた。朝読書が読書のきっかけになっており、良かったと思っている。また、書店で実施されていた読み聞かせも楽しかった思い出である。学校での読み聞かせについては、回数が減っており残念に感じているが、読書ボランティアが学校で新刊紹介をするなど、重要な読書のきっかけづくりになっている。

委員

保育園でも公民館のサロンで読み聞かせを行っている。また、保育園の絵本は保護者も興味深く見てくださり、夏ぐらいから絵本の貸出を始めており、「良い本があります」と声をかける等、保育園ならではの読書活動推進を行っている。乳幼児から大人と一緒に本を読むことが大事であると感じており、今後も取組を継続していく。

副委員長

子どもの読書活動推進ということは、大人の読書活動推進でもある。スマホが普及する中、活字文化がどうなっていくのか、

委員長

今後の社会の在り方も含めて今後の課題と思われる。

社会全体でしっかりと取り組んでいく必要がある。では以上で
議題は終了とする。

終了